

ヒメアカタテハ、モンキチョウ 厳冬期の成虫記録

近藤 伸一

1999年度に神戸市西区岩岡町の水田地帯で蝶のルートセンサスを行ったが、2000年1月の厳冬期に下記のとおり成虫を観察することができたのでその状況を報告する。

- 3-I-2000 ヒメアカタテハ2exs.
モンキチョウ1ex.
- 15-I-2000 ヒメアカタテハ2exs.
(うち1頭が1月3日と同一個体)
モンキチョウ1ex.
- 29-I-2000 ヒメアカタテハ1ex.
(1月15日と同一個体)
モンキチョウ1ex.

調査概要

1999. 12. 23の調査では(11:10~13:30)ヒメアカタテハ7頭とキチョウ1頭が日溜まりで見られた。例年12月末まで成虫を確認できるが、この年は特に成虫の見られる数が多かった。年末、年始は冷え込み、最低気温は毎日のように氷点下であった。

2000. 1. 3(11:40~14:15)

気温が上がり調査時には10℃を越した。

A地点でヒメアカタテハ1頭とモンキチョウ1頭、B地点でヒメアカタテハ1頭を日溜まりで見える。動きは活発で花への依存が高く、花から花へとぶ。ヒメアカタテハは2頭とも撮影。

2000. 1. 15 晴(13:00~13:45)

正月を過ぎてから気温の高い日が続きこの日も快晴で午後には暖かくなったので、1月3日に成虫が見られたA、B2地点を調査。A地点で1月3日に撮影した同じ個体がセイヨウタンポポで吸蜜していた。花に強くひかれ、吸蜜しては飛び立ちすぐに近くの花にとまる。時々は畑に向かって飛び立つが、ブーメランのように半径10mほどの円を描いては付近の花に舞い戻り、吸蜜するという具合で、花以外の場所にはとまることはなく、同じ花に約1分~20秒ほどかけて吸蜜を繰り返した。吸蜜に夢中で撮影のためカメラを20cmほどの距離まで近づけても飛び立つことはなかった。

この場所から200m離れた、B地点でも成虫が見られた。パーベナの花と道を隔てた畦のセイヨウタンポポの間を行き交い、盛んに吸蜜していた。この成虫は写真比較で1月3日とは別個体であることが判明した。

2000. 1. 29 晴(13:00~14:00)

全国的な寒波が来て、冬らしい天候が続いたがこの日は快晴で比較的気温が高いため成虫確認に出かけた。1月15日に調査したA、B2地点の中間点にあたる農地で、菜の花とセイヨウタンポポを吸蜜するヒメアカタテハを見つけ撮影した。成虫は前回と同様に花に強くひかるものの活発で、不用意に近づくとすぐに飛び立つが、遠くに飛び去ることはなく、すぐに近くの花にとまった。

斑紋から1月15日にB地点で撮影したものと同じ個体であった。

またA地点で、モンキチョウを発見し撮影した。モンキチョウは翅は痛んでいるものの、動きは活発で、近づく気配に敏感に反応しすぐに飛び立った。しかしヒメアカタテハと異なり、花に執着することはなく、日光がよくあたる土手に止まり、折り畳んだ羽(裏面)の面が太陽光線と直角になるように体を寝かせてとまった。

その後2000. 2. 5と2000. 2. 12に調査を行った。快晴、無風で気温は高く、暖い日であったが成虫は見られなかった。

兵庫県におけるクロコノマチョウの食草について

広畑 政巳

本種の県下における分布拡大にともない食草についての観察例も多くなり、イネ科植物でツルヨシ、ジュズダマ、ススキ、アブラススキ、ダンチク、ソルガムなどが法西 浩(1999)によって報告されている。

筆者も県下の二ヶ所で本種の食草を確認しているので報告しておく。一ヶ所は市川町上牛尾半瀬で、2000年5月21日に弱齢幼虫多数と産卵をしていた植物を秋になって確認した結果、アブラススキであることが判明した。また姫路市緑台で1999年7月31日に確認した幼虫のいた食草についてはススキであった。これまでに報告のある食草であるが、記録として書き留めておきたい。

<参考文献>

法西 浩(1999) 兵庫県のクロコノマチョウ1997・98年の記録 蝶研フィールド14(6) : 17-21